

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	1493600017
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜いずみ野
訪問調査日	平成20年7月28日
評価確定日	平成20年9月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 8月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493600017号
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホーム みんなの家 横浜いずみ野
所在地	神奈川県横浜市泉区和泉町7591-18 (電話) 045-306-0728

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年7月28日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 26日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤 6人	非常勤 12人	常勤換算 3.8人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄骨)造り		
	2階建ての	(1)階 ~ (2)階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	55,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要 日付を入力

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	63 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南泉病院 八木在宅クリニック 中村歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、開設以来2年が経過し、1階・2階とも静かに生活しています。立地場所は、泉区と瀬谷区の境界にある住宅地域の一角に建設されています。2階の居間兼食堂から真正面に見える富士山の姿は得がたい光景です。運営母体はさいたま市に本社を持つ(株)ウイズネットであり、同社は各種の福祉事業のノウハウを活かし、グループホーム等を40箇所ほど運営する法人です。同法人の理念のもとに、当ホームでは発足時の職員全員で作った理念である「共に助け合い、共に喜び、共に笑う」の実践に向けて、日々努力しています。ホーム理念を念頭に置き「一言通信」と家族会を大切にしているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は防災訓練や避難訓練の実施でした。その後、現在までに2度、実際の場面を想定した訓練を行い、緊急連絡網の確認、駆けつけの訓練、入居者の避難時間の測定、等を実施しています。以上の実施状況を運営推進会議において報告し、緊急時や災害時における地域の協力を要請しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義や目的について、スタッフ会議で話し合っています。その結果、自己評価は職員全員で行い、全員が自己評価票に記入しています。今回、評価されるという受身の立場ではなく、自らの介護のあり方を振り返る良い機会と捉えています。今回の自己評価は保存しておき一年後に見直す事としています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>前年度までは区主催の合同の運営推進会議でした。主な討議内容は夫々のホームが取り組んでいる個別ケアの実施状況や活動状況の報告です。地域の委員からはホームの地域における理解度などが話題にされました。他のホームの活動状況に刺激され、当ホームにおける平成20年度の活動計画に反映した行事もあります。それは家族会議での要望でもあり、また、ホーム長の取り組みたい事項でもあった日帰りバス旅行が実現した事です。利用者は思い思いに羽を伸ばした写真が掲示されています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の暮らしぶりについては毎月「一言通信」にて写真を添えて、家族に知らせています。また、年に2回は開催している家族会においては、運営者からのお知らせの後、家族とは数多くの質疑が交わされ、ホームの運営に反映されています。今年5月に、当ホームの2周年行事として実施された日帰りバス旅行も家族会での要望事項が実現された一例です。廊下には利用者の楽しそうな写真が掲示されています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、地域の盆踊り、夏祭りなどに参加し、交流を深めています。また、運営推進会議の地域メンバーの配慮もあり、地元ボランティアグループ(日本舞踊)の訪問は定期的となるなど、ホームの生活に彩りが添えられています。更に、近隣の子供会が取り組んでいる廃品回収作業にも参加しています。隣地の大家さんから野菜の差し入れがある等、種々の配慮がなされていますが、地元との交流の大切さは、ホーム長以下も良く認識しており、更に交流を深める具体策について検討が進められています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念である「地域福祉を考え、介護、看護、医療全般の充実したサービスを提供」を基本にしながら、当ホームでは、発足時のスタッフ全員で相談してまとめた理念が「共に助け合い、共に喜び、共に笑う」であります。この理念は職員全員の心にしみこんでいます。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長を中心に全員で作成した理念は玄関や介護ステーションに掲示され、自らの意識の中心において日々実践しています。2回目の外部評価に際し、理念についても職員全員で振り返った結果、改めてこの理念の下での支援サービスの実践を誓い合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の一員になりきるよう努力をしています。運営推進会議の成果でもある、地域のボランティアグループとの交流も進み、盆踊り、夏祭りなどへも参加しています。また、子供会が実施している廃品回収の作業にも協力・参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義についてスタッフ会議で話し合っており、自己評価は職員全員で行っています。この機会を評価されるという受身の立場を超えて自らの介護のあり方を振り返る良い機会と捉えています。なお、外部評価の結果については、利用者全員の家族に送付し周知する等、介護状況の透明性にも配慮しています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政区が主催するグループホーム連絡会に出席し、他のホームとの情報交換を行い、ホーム内の活動の参考にしています。また、平成20年度は地域ケアプラザが主催する、利用者が介護者と共に他のホームの方と、一時を過ごす「グループホームの輪」が計画されており、楽しみにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	#REF!		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月預かり金に関する出納の報告に併せ、機関紙「ういず」と共に、利用者の日頃の暮らしぶりや食事の状況などに関する報告を写真入りの「一言通信」にて、毎月家族に報告しています。なお、利用者にて体調の変化などが有った場合はその都度、電話による連絡をしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情などの相談窓口は、重要事項説明書で明確にされていますが、実効的には日常における利用者の意向などを、個人別に整理し対応状況も記録しています。年に2回は開催される家族会には、過半数の家族が出席し、ホーム側は法人本部からも出席し、疑問、不安、要望などに応えています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者へのダメージを防ぐため職員の異動には気を配っています。近距離に新設したホームに異動した職員は、転勤後も前の利用者とかかわりを持ち支援に配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人の教育機関からの訓練メニューを回覧する事及びスタッフ会議における伝達により、希望者は研修に参加できる体制が出来ています。		当ホーム、職員の意識の高さは、自己評価や理念の実践に向けた取り組みに表われていますので、更なる組織能力の向上を目指して、職員の個人別研修記録の整備や組織として期待する個人別の年間研修計画の策定が期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政が主催するグループホーム連絡会や地域ケアプラザ主催の「グループホームの輪」に参加して、他のホームと交流しています。その他に当法人が運営するホーム同士の交流会や研修会、バーベキュー会を通じて相互啓発に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>通常は入居前にホームの雰囲気等を見学する際、入居者とお茶を飲みながら話しをする機会を作っています。更に、ホーム長が直接、現地調査し正確な状況判断に努めると共に受け入れ体制(一例:下駄箱の名札など)にも配慮しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はホームの理念の柱である「共に・・・」を何時も念頭に置き、一緒に過ごしながらか、利用者の喜怒哀楽や得意な事を見つける努力をしています。庭の花作り、ケーキ作り、毛筆の書などはその例ですが、更に、利用者個々人の得意技、好きな事等を引き出す努力も見受けられます。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりが日々穏やかに過ごせるように、言葉、表情、行動から思いをくみ取るようにしています。申送りノート、生活の記録など最大限に活用しています。入居者本人同席のカンファレンスも検討されています。また、誕生会には本人の思いを聴いて実現できるよう努力しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアに関わるスタッフは、入居者本人の意向を大切に考えながら介護計画を作成しています。本人、家族の意見、要望も介護計画に反映させています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の体調を日々観察し、現状にあった新たな計画を作成しています。カンファレンスではモニタリングを行い、緊急の対応が必要な際には、すぐに見直しを行っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の組織を活かし、柔軟な支援をしています。必要な方には自費ヘルパーの情報提供やシニアセラピー(顔・足のマッサージ)の紹介をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人、家族の希望により、かかりつけ医との関係を大切にしています。また提携病院の医師の往診が月2回あり、適切な医療を受けられるように支援しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、対象者はいませんが、重要事項説明書の中で、「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し、同意書を取り交わしています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけを大切に考え、職員は常に意識するようにと徹底しています。浴室の脱衣コーナー、個々の居室のドアの小窓にカーテンを設置するなど、プライバシー確保に努めています。また、個人記録の書類は鍵のかかる書庫に保管されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意向を常に確認しながら、それぞれの望むことを最優先して過ごせるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気の中で、入居者と職員と一緒に食事を取っています。準備、盛り付け、片付け等も入居者と職員と一緒にしています。食事が楽しみなものになるように、行事食、パンバイキングなど工夫しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の入りたい時間にいつでも入れるようになっていきます。入浴を拒む方に対しても、タイミングを見て声かけをしながらさりげなく誘導しています。また、入浴を拒む方には対応方法等の情報を共有化するようにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの出来ることを大事にしながら、役割を持って張りあいのある生活を送ることが出来るように支援しています。入居者は家事の手伝い、季節の花作り、絵、書道、カラオケ、チラシを使った工作等楽しんでいきます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により、散歩、買い物は日課となっています。近所のスーパーへの買い物、近くの川沿いの散歩、お花見など戸外へ出る機会を多く持てるように支援しています。なお、今年は、2周年記念行事の一環として、日帰りバス旅行を計画し外出を楽しんでいます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は十分理解していますが、家族の理解を得て、防犯上、玄関だけは施錠しています。しかし、入居者の希望があれば、すぐに外に出られるようになっていきます。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、防災訓練を年2回実施しています。運営推進会議を通して、緊急時には近隣の協力が得られるように働きかけもしています。1回目は、台所からの出火を想定し、火災報知機の動作確認と避難誘導。2回目は、配電盤からの出火を想定し、緊急連絡方法、駆けつけ体制の演習を行いました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はバイタルチェック表に記入し管理しています。個人のマグカップの容量も量った上で、細かく記録されています。食堂にはポットに入ったお茶が常に用意されているので、いつでも飲めるようになっています。バランスよく栄養摂取できるように献立の調整も行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備担当の職員もあり、室内は季節感あふれる雰囲気になるよう工夫しています。フロア、玄関など季節の花を欠かすことのないようにしています。トイレは各フロアに3ヶ所ずつ設備されています。なお、2階の居間兼食堂からは富士山の全景が見られます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェスト、クローゼット、ベッドは予め用意されていますが、希望があれば使い慣れた好きなものを持ち込むこともできます。テレビ、仏壇、いす、人形ケースを置いている入居者もいます。壁には絵、写真も飾られています。カーテンは好きな柄を選択、床にはカーペットを敷くことも出来ます。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	みんなの家横浜いずみ野
(ユニット名)	1U
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	管理者 菅沼弓子
記入日	平成20年6月25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	共に助け合い、共に喜び、共に笑うという理念に基づき、地域の方々、商店公園など地域環境の中に共に生きるという姿勢を作りあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルーム、玄関には理念を提示し、意識を持って行動している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会に入会し、運営推進会議で、家族会や自治会の人と話し合いの場を持っている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔を合わせた時は、挨拶を交わしている。その時、家に招待され、つるし雛を見たり、庭を見せて頂いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会主催の盆踊り、夏祭りなどに参加している。子供会の子供神輿に立ち寄りてもらい、入居者様と子供達の交流をしている。 ・子供会で取り組んでいる廃品回収に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	認知症を理解して頂けるような学習会の開催に向けて地域包括センターに働きかけを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価をスタッフ全員で行い、外部評価を実施する意義をスタッフ会議で話し合っている。評価の問題ではなくよりよい介護の為の指針として取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	定期的に会議を開いている。活動報告をし、ご家族、地域の方の意見を頂いている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	グループホーム連絡会に出席し、情報の交流を行っている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者は研修等出席し、社内研修で、伝達している。ご本人の意志決定が第一であるが、必要な時には代弁者としての支援を行っている。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	委員会を作り虐待、身体拘束についての勉強会を行っている。全身観察表をつけ、全身状態の把握をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書は事前に利用者、ご家族にお渡しし、確認して頂いている。契約、解約時には、不安、疑問点を伺い納得して頂けるよう十分な説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ご家族の協力を得ながら、不満等がないか確認している。 ・回数は少ないが、入居者会議を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、金銭出納帳、居宅担当者による、一言通信(写真とともに)で近況の様子、職員の異動について報告している。体調変化については随時電話連絡をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情相談窓口を明確にしている。 ・家族会、ご家族対応ノート、意見箱でご家族の意見を聞き反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・行事、日常業務はスタッフ会議で話し合い職員主体で行っている。 ・職員面談も行い意見を聞く場を作っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の状態に応じて、又行事等で、人員が必要な時は、職員を多く確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者様へのダメージを防ぐ為馴染みの職員が気を配り、配置転換しても関わりを持つなど行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内研修制度があり、誰でも参加出来るよう、提示回覧している。 ・スタッフ会議の中で伝達研修を行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、他ホームの管理者と交流する機会を持っている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・随時個別面談を行っている。 ・入居者様より離れた場所に休憩場所を設けている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が各担当係りの仕事を持ち、リクレーション環境整備等、役割分担をし、入居者様にとってよりよいホームになる様、考え取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人がゆっくりと安心して話して頂ける環境作りに配慮し、聴く機会を作るようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面談の時間を取り、ゆっくりと話しを聴き、ご家族様がどのようにしたいのか思いを受け取る努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を良く聴き、アセスメントを行い、その人にとって何が一番必要としているかを話し合い対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学しホームの雰囲気等を見て頂く。その時に他入居者様とお茶を飲んで話しをしたりする場を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・共にという理念に基づき、一緒に過ごしながら考えあう関係を築いている。 ・入居者様と花を育てたり、ケーキ作りをしたり、生活の中で共有の時間を持っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には、ご家族にも参加して頂いている。ご家族と話し合いながら本人を支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族のこれまでの関係に配慮しつつ、現在の状態をご家族に報告している。 ・入居者様とご家族の接する機会が多く持てる様支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、知人、兄弟、お孫さん等が訪問されたり、一緒に外出されたりしている。 ・友人と手紙のやりとりをされている方もいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者様同志の関係を把握し、必要があれば職員が間に入りよりよい関係が保てるよう配慮している。 ・入居者様同志がお互い助け合う関係が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ退去された方との継続的な関わりはないが、今後関わりを必要とされる方に対して要望があれば取り組んでいく。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言葉、表情、行動に目を向け本人の思いを汲み取るようにしている。		本人同席のカンファレンスを行い、本人の意向に添うよう取り組む
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に十分な時間を取り、ご家族、本人からの情報の収集をし、共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方、心身状態は、生活記録、健康管理表等に記入し、状況の変化の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の意向を大切にし、カンファレンスでモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。 ・ご家族の要望も伺い反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・設定された期間毎にモニタリング又毎月のカンファレンスを行い、見直しを行っている。 ・状態の変化で緊急の対応が必要な時にはすぐに見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ファイルに様子、言葉、排泄、身体状況を記録し、情報を共有している。 ・記録を元にカンファレンスをして話し合い統一した介護を行えるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、対応しています。必要な人には自費ヘルパーの情報提供や、シニアセラピーの紹介等をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域のボランティアの方による舞踊訪問がある。 ・消防署の協力による火災訓練を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	区ケアマネ連絡会に参加し、情報交換をし、ケアプラザの催し物への参加に繋げている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等で情報交換、協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・往診の係りつけ医は、入居時に御家族、本人に決めて頂いている。 ・月2回往診があり、医師の診療、相談を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医と専門医の連携があり、入居者の状態により、診断治療を受けたり、職員が相談したり出来るようになっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・月2回の訪問介護が実地されている。 ・日常の健康管理、職員の相談等行われている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時、病院、御家族と連絡を取り情報提供を行っている。 ・主治医より家族への状態説明時には同席したり、ソーシャルワーカー等と面談し、早期退院に向けて話し合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象者はいないが、機会がある毎に家族と話し合いをしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアはやってないが家族・医師との話し合いをし結果スタッフ間でもカンファレンスで統一した介護が出来るよう話し合いをしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、以前の入所先からの情報収集や家族からの情報を得て御本人の混乱が最小限になるよう努めている。又他施設への情報として介護サマリーを提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けは会議、申し送り等で意識するよう話し合い、特に排泄の際は、声のトーンに配慮している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>御本人から思いやりや意見など話せるよう、ゆっくりと接し又表情や仕草など観察し、自己決定出来るよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様の希望されることを最優先とし、一人一人に合った過ごし方が出来るよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・出来る方は服の選択はして頂いている。 ・御本人の希望により、御家族の美容師、近隣美容師、訪問美容など利用出来る様支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食事準備、片付け等、その人に合ったことをして頂く配慮をしている。 ・何種類の調味料の中から好きな物を選んで頂き、少しでも楽しみのある食卓にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・飲み物は御本人の好きな物が選択出来る様配慮している。 ・煙草は他の入居者様に配慮して場所を決め喫煙している。 ・お酒は近所のスナック等を利用している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、その人に合わせた声掛け誘導をし、定期誘導をし排泄に向けた自立支援をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴を拒む方に関して対応方法などの情報の共有を行い、支援している。 ・時間帯の希望が有る方には、それに合わせた対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の今後の生活習慣により、施設して安心される方はその様な対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・日常家事において能力に応じた役割を持って頂ける様支援している。 ・本人希望により、楽しみごと、得意なことが出来る様支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と話し合い本人が財布を所持し、外出時、好きな物が買える様支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・本人希望により買物、散歩等日課のように行っている。 ・車椅子の方も出来る限り外へ出るよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・日常の会話の中からお希望を聞き、祭り、花見等季節に合った外出をしている。 ・個別ケアとして本人の望まれる食事、買物等行く機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望された時には、ホームの電話を利用してかけて頂いている。 ・手紙のやりとりをされている方への支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方のご希望により居室で過ごすこともあれば、他の入居者様と一緒にフロアで過ごすこともある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束では会議で話し合いを行い、身体拘束ゼロに向けた意識向上を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠は防犯上行っていることを、御家族に説明し、ご理解頂いている。 ・入居者様が出たい時はいつでも出られる様になっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・本人のプライバシーに配慮し入居者様を見守りやすい位置に居たり、職員どおしの声掛けで所在を確認している。 ・夜間は2時間おきに巡回し、安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・居室内では入居者様の状況に応じて御家族と相談してホーム預かり等の対応している。 ・現在設置出来る物は置き、危険の高い包丁洗剤等はしっかり管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人ひとりの状態を把握し事故に合った場合は、事故報告書を記入をし、職員に周知徹底を行っている。 ・再発防止について会議を開き防止策の検討を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救命救急法の研修をホームで行う予定。 ・又消防署主催の研修に参加している。 ・緊急時ダイヤルのファイルを作っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・設備点検を定期的に行い、火災、防災訓練を年2回行っている。 ・運営推進会議で緊急時災害時に地域の協力が得られるよう話しをしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化に伴うリスクについてはその都度家族に説明し、毎月の通信でも報告している。 ・家族と話し合いながら対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックだけでなく、顔色、食欲、表情、動作等で状態を把握し変化に早く気づき、申し送りノートに記載し情報を共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬説明はいつでも見られる様に、生活記録と一緒にファイルしてある。 ・変薬時には様子観察を行い医師、家族との連携を取っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘予防の為積極的に体を動かすように体操をしている。 ・水分量のチェックをしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。 ・入居者の状態に応じ、声掛けや介助にて、清潔保持の支援をしている。 ・週1回義歯、歯ブラシの消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量はチェック表に記録している。 ・バランスよく摂取できるよう献立調整を行ったり職員が一緒に席に着き声掛けるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがある。ホームとしては、朝夕2回、テーブル、椅子手すり、手すり等の消毒を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所用品、布きん、の衛生管理の取り決めが出来ている。 ・毎食毎の布きんの消毒、夕食後のまな板の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関入口には、季節の花、ベンチテーブルを置き親しみやすい空間を作っている。 ・近所の人が犬の散歩等に入って来易い入口となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロア、玄関には季節の花を欠かせないようにしている。 ・カレンダー壁画を一緒に作り、季節を感じられるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや玄関内外にソファや椅子を置き、一人でもくつろげる居場所を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたテレビ、タンスや仏壇を置いている。 ・アルバムや写真立てを置き居心地よく過ごして頂ける様にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室内の換気扇は常時作動している。 ・掃除時には窓を開け外気を入れるようにしている。 ・入居者様の状態に配慮しながら温度調整を行っている。 ・冬場は加湿器使用し工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、トイレの手すりの設置。 ・機能の変化に応じて、歩行器使用等、家族と相談しながら取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状態を把握し、混乱や失敗を防ぐように、居室入口には、名前を貼ったり、トイレ、浴室の場所が分かるよう、暖簾、貼り紙等をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先、庭に季節の花を植え水やりをしたり、ベンチテーブルを利用し、日光浴、お茶飲み、歌を唄ったりして楽しんでいる。		洗濯干し場を入居者様が干せる様に配置することを考えている

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様の思いを汲み取り、その思いを少しでも実現できるよう個別ケア計画を立てその人らしい支援をしている。
又日常的に地域との交流が出来、一緒に行事に参加したり、されたりの関係が築け、入居者さん、地域、スタッフ、御家族と共に助け合い、喜び、笑い合えながら生活できるホームを目指しています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	みんなの家横浜いずみ野
(ユニット名)	2U
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	管理者 菅沼弓子
記入日	平成20年6月25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	共に助け合い、共に喜び、共に笑うという理念に基づき、地域の方々、商店公園など地域環境の中に共に生きるという姿勢を作りあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルーム、玄関には理念を提示し、意識を持って行動している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会に入会し、運営推進会議で、家族会や自治会の人と話し合いの場を持っている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔を合わせた時は、挨拶を交わしている。その時、家に招待され、つるし雛を見たり、庭を見せて頂いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会主催の盆踊り、夏祭りなどに参加している。子供会の子供神輿に立ち寄ってもらい、入居者様と子供達の交流をしている。・子供会で取り組んでいる廃品回収に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症を理解して頂けるような学習会の開催に向けて地域包括センターに働きかけを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をスタッフ全員で行い、外部評価を実施する意義をスタッフ会議で話し合っている。評価の問題ではなくよりよい介護の為の指針として取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開いている。活動報告をし、ご家族、地域の方の意見を頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会に出席し、情報の交流を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修等出席し、社内研修で、伝達している。ご本人の意志決定が第一であるが、必要な時には代弁者としての支援を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り虐待、身体拘束についての勉強会を行っている。全身観察表をつけ、全身状態の把握をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書は事前に利用者、ご家族にお渡しし、確認して頂いている。契約、解約時には、不安、疑問点を伺い納得して頂けるよう十分な説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ご家族の協力を得ながら、不満等がないか確認している。 ・回数は少ないが、入居者会議を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、金銭出納帳、居宅担当者による、一言通信(写真とともに)で近況の様子、職員の異動について報告している。体調変化については随時電話連絡をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情相談窓口を明確にしている。 ・家族会、ご家族対応ノート、意見箱でご家族の意見を聞き反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・行事、日常業務はスタッフ会議で話し合い職員主体で行っている。 ・職員面談も行い意見を聞く場を作っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の状態に応じて、又行事等で、人員が必要な時は、職員を多く確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者様へのダメージを防ぐ為馴染みの職員が気を配り、配置転換しても関わりを持つなど行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内研修制度があり、誰でも参加出来るよう、提示回覧している。 ・スタッフ会議の中で伝達研修を行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、他ホームの管理者と交流する機会を持っている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・随時個別面談を行っている。 ・入居者様より離れた場所に休憩場所を設けている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が各担当係りの仕事を持ち、リクレーション環境整備等、役割分担をし、入居者様にとってよりよいホームになる様、考え取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人がゆっくりと安心して話して頂ける環境作りに配慮し、聴く機会を作るようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面談の時間を取り、ゆっくりと話を聴き、ご家族様がどのようにしたいのか思いを受け取る努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を良く聴き、アセスメントを行い、その人にとって何が一番必要としているかを話し合い対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学しホームの雰囲気等を見て頂く。その時に他入居者様とお茶を飲んで話しをしたりする場を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・共にという理念に基づき、一緒に過ごしながら考えあう関係を築いている。 ・入居者様と花を育てたり、ケーキ作りをしたり、生活の中で共有の時間を持っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には、ご家族にも参加して頂いている。ご家族と話し合いながら本人を支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族のこれまでの関係に配慮しつつ、現在の状態をご家族に報告している。 ・入居者様とご家族の接する機会が多く持てる様支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、知人、兄弟、お孫さん等が訪問されたり、一緒に外出されたりしている。 ・友人と手紙のやりとりをされている方もいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者様同志の関係を把握し、必要があれば職員が間に入りよりよい関係が保てるよう配慮している。 ・入居者様同志がお互い助け合う関係が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ退去された方との継続的な関わりはないが、今後関わりを必要とされる方に対して要望があれば取り組んでいく。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言葉、表情、行動に目を向け本人の思いを汲み取るようにしている。		本人同席のカンファレンスを行い、本人の意向に添うよう取り組む
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に十分な時間を取り、ご家族、本人からの情報の収集をし、共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方、心身状態は、生活記録、健康管理表等に記入し、状況の変化の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の意向を大切に、カンファレンスでモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。 ・ご家族の要望も伺い反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・設定された期間毎にモニタリング又毎月のカンファレンスを行い、見直しを行っている。 ・状態の変化で緊急の対応が必要な時にはすぐに見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ファイルに様子、言葉、排泄、身体状況を記録し、情報を共有している。 ・記録を元にカンファレンスをして話し合い統一した介護を行えるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、対応しています。必要な人には自費ヘルパーの情報提供や、シニアセラピーの紹介等をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域のボランティアの方による舞踊訪問がある。 ・消防署の協力による火災訓練を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	区ケアマネ連絡会に参加し、情報交換をし、ケアプラザの催し物への参加に繋げている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等で情報交換、協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・往診の係りつけ医は、入居時に御家族、本人に決めて頂いている。 ・月2回往診があり、医師の診療、相談を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医と専門医の連携があり、入居者の状態により、診断治療を受けたり、職員が相談したり出来るようになっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・月2回の訪問介護が実地されている。 ・日常の健康管理、職員の相談等行われている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時、病院、御家族と連絡を取り情報提供を行っている。 ・主治医より家族への状態説明時には同席したり、ソーシャルワーカー等と面談し、早期退院に向けて話し合っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象者はいないが、機会がある毎に家族と話し合いをしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアはやってないが家族・医師との話し合いをし結果スタッフ間でもカンファレンスで統一した介護が出来るよう話し合いをしている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、以前の入所先からの情報収集や家族からの情報を得て御本人の混乱が最小限になるよう努めている。又他施設への情報として介護サマリーを提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けは会議、申し送り等で意識するよう話し合い、特に排泄の際は、声のトーンに配慮している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	御本人から思いやりや意見など話せるよう、ゆっくりと接し又表情や仕草など観察し、自己決定出来るよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望されることを最優先とし、一人一人に合った過ごし方が出来るよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・出来る方は服の選択はして頂いている。 ・御本人の希望により、御家族の美容師、近隣美容師、訪問美容など利用出来る様支援している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事準備、片付け等、その人に合ったことをして頂く配慮をしている。 ・何種類の調味料の中から好きな物を選んで頂き、少しでも楽しみのある食卓にしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・飲み物は御本人の好きな物が選択出来る様配慮している。 ・煙草は他の入居者様に配慮して場所を決め喫煙している。 ・お酒は近所のスナック等を利用している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、その人に合わせた声掛け誘導をし、定期誘導をし排泄に向けた自立支援をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴を拒む方に関して対応方法などの情報の共有を行い、支援している。 ・時間帯の希望が有る方には、それに合わせた対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の今後の生活習慣により、施設して安心される方はその様な対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・日常家事において能力に応じた役割を持って頂ける様支援している。 ・本人希望により、楽しみごと、得意なことが出来る様支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と話し合い本人が財布を所持し、外出時、好きな物が買える様支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・本人希望により買物、散歩等日課のように行っている。 ・車椅子の方も出来る限り外へ出るよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・日常の会話の中からお希望を聞き、祭り、花見等季節に合った外出をしている。 ・個別ケアとして本人の望まれる食事、買物等行く機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望された時には、ホームの電話を利用してかけて頂いている。 ・手紙のやりとりをされている方への支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方のご希望により居室で過ごすこともあれば、他の入居者様と一緒にフロアで過ごすこともある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束では会議で話し合いを行い、身体拘束ゼロに向けた意識向上を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠は防犯上行っていることを、御家族に説明し、ご理解頂いている。 ・入居者様が出たい時はいつでも出られる様になっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・本人のプライバシーに配慮し入居者様を見守りやすい位置に居たり、職員どおしの声掛けで所在を確認している。 ・夜間は2時間おきに巡回し、安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・居室内では入居者様の状況に応じて御家族と相談してホーム預かり等の対応している。 ・現在設置出来る物は置き、危険の高い包丁洗剤等はしっかり管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人ひとりの状態を把握し事故に合った場合は、事故報告書を記入をし、職員に周知徹底を行っている。 ・再発防止について会議を開き防止策の検討を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救命救急法の研修をホームで行う予定。 ・又消防署主催の研修に参加している。 ・緊急時ダイヤルのファイルを作っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・設備点検を定期的に行い、火災、防災訓練を年2回行っている。 ・運営推進会議で緊急時災害時に地域の協力が得られるよう話しをしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化に伴うリスクについてはその都度家族に説明し、毎月の通信でも報告している。 ・家族と話し合いながら対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックだけでなく、顔色、食欲、表情、動作等で状態を把握し変化に早く気づき、申し送りノートに記載し情報を共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬説明はいつでも見られる様に、生活記録と一緒にファイルしてある。 ・変薬時には様子観察を行い医師、家族との連携を取っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘予防の為積極的に体を動かすように体操をしている。 ・水分量のチェックをしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。 ・入居者の状態に応じ、声掛けや介助にて、清潔保持の支援をしている。 ・週1回義歯、歯ブラシの消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量はチェック表に記録している。 ・バランスよく摂取できるよう献立調整を行ったり職員が一緒に席に着き声掛けるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがある。ホームとしては、朝夕2回、テーブル、椅子手すり、手すり等の消毒を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所用品、布きん、の衛生管理の取り決めが出来ている。 ・毎食毎の布きんの消毒、夕食後のまな板の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関入口には、季節の花、ベンチテーブルを置き親しみやすい空間を作っている。 ・近所の人が犬の散歩等に入って来易い入口となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロア、玄関には季節の花を欠かせないようにしている。 ・カレンダー壁画を一緒に作り、季節を感じられるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや玄関内外にソファや椅子を置き、一人でもくつろげる居場所を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたテレビ、タンスや仏壇を置いている。 ・アルバムや写真立てを置き居心地よく過ごして頂ける様にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室内の換気扇は常時作動している。 ・掃除時には窓を開け外気を入れるようにしている。 ・入居者様の状態に配慮しながら温度調整を行っている。 ・冬場は加湿器使用し工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、トイレの手すりの設置。 ・機能の変化に応じて、歩行器使用等、家族と相談しながら取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状態を把握し、混乱や失敗を防ぐように、居室入口には、名前を貼ったり、トイレ、浴室の場所が分かるよう、暖簾、貼り紙等をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先、庭に季節の花を植え水やりをしたり、ベンチテーブルを利用し、日光浴、お茶飲み、歌を唄ったりして楽しんでいる。		洗濯干し場を入居者様が干せる様に配置することを考えている

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様の思いを汲み取り、その思いを少しでも実現できるよう個別ケア計画を立てその人らしい支援をしている。又日常的に地域との交流が出来、一緒に行事に参加したり、されたりの関係が築け、入居者さん、地域、スタッフ、御家族と共に助け合い、喜び、笑い合えながら生活できるホームを目指しています。